

事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称	施策I-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり
---------	----------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	農地整備課長 足立和彦	電話番号	0852-22-5149
----------	-------------	------	--------------

事務事業の名称	国営緊急農地再編整備事業関係事務		
目的	(1) 対象	国営緊急農地再編整備事業の受益農家	
	(2) 意図	農地の大区画化を契機に広域的な地域協働体を組織し、高収益作物への転換と土地利用の向上を通じて、農家の所得向上を図る。	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 農地の大区画化及び排水改良による乾田化を行う国営緊急農地再編整備事業について、国や市と受益農家及び関係機関と協議を行い事業の推進を図る。 国から換地業務を受託し、土地の権利に係る調査等を行い、換地計画書を作成する。 		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	受益地内の高収益作物の栽培面積	目標値			13.8	18.0	ha
	式・定義	小豆及びプロッコリーの栽培面積	取組目標値					
				実績値				
			達成率	-	-	-	-	%
2	指標名	換地計画原案の作成面積	目標値			32.2	454.3	ha
	式・定義	換地設計基準が確定した面積	取組目標値					
				実績値				
			達成率	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	0	55,000
うち一般財源 (千円)	0	2,000

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	⑤今年度新規
---------------------	--------

5. 評価時点での現状 (客観的事実・データなどに基づいた現状)

<ul style="list-style-type: none"> 高収益作物の栽培状況 (H29) (H41) 小豆 0.1ha 139.3ha プロッコリー 7.3ha 42.0ha 	<ul style="list-style-type: none"> 換地設計基準確定面積 (H29) 5つの換地工区いずれも未確定
計 8.4ha 181.3ha	
高収益作物の割合 1.8% 40%	
(受益面積456haに対する割合)	

6. 成果があったこと (改善されたこと)

平成29年度
小豆の実証ほの設置、小豆の新商品開発及び試食会を開催し、販路拡大を図るため、需要の掘り起こしを行い、次年度以降の作付け拡大につながった。
換地設計基準の作成に向け、換地の勉強会を開催し、地元の理解が深まった。

7. まだ残っている課題 (現状の何をどのように変更する必要があるのか)

- ①困っている「状況」
- 水田の排水不良による湛水被害の発生や、地下水位が高いことによる高収益作物が拡大していかない状況。
 - 区画が狭小・耕作道が狭隘であることから作業効率が悪く、農業生産のコスト高の状況。
- ②困っている状況が発生している「原因」
- 昭和40～50年代に設置された排水機場が、自然的条件の変化等に起因して排水施設の機能が低下しているが、土地改良事業に取り組みられていないため、排水不良が生じている。
 - 昭和40年代にほ場整備事業が実施されているが、その後、土地改良事業が取り組まれていないため、区画が狭小(30a区画)であり、生産コスト高となっている。
- ③原因を解消するための「課題」
- 国営事業を推進し、農業用排水施設及び暗渠排水を施工することで、地下水位を下げ、水田の汎用化を図り、高収益作物の導入を進める。
 - ほ場を大区画化(1ha区画)し、大型機械を導入することで生産コスト削減を図る。

8. 今後の方向性 (課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

今年度着手する国営緊急農地再編整備事業が予定工期内で事業が完了し、早期に効果が発現できるよう国へ必要な予算の確保を働きかける。
事業が円滑に進むよう工事、営農、換地等について、国、県、市が連携して地元調整を積極的に進めていく
計画どおりの工事着手に向け、各工区の換地原案の作成に取り組む。
特に平成33年度に区画整理の工事に着手する西代地区は、平成31年度中の換地計画原案が作成できるよう取り組む。